



鈴鹿市議会議員 なかにしだいすけの活動報告

議会報告2013

http://www.daisuke-nakanishi.net/
daisuke.nakanishi@gmail.com

2013
3・6月議会

発行者：
中西大輔
鈴鹿市南若松町296-12
TEL&FAX: 059-368-1110

携帯からブログをどうぞ

日々の活動から時事ネタで考えることまで、いろいろ書きつづっています。

http://blog.goo.ne.jp/daisukesodate/



3月の一般質問にみる鈴鹿の課題

長期的な視点でこれからをどう予測？

少子高齢化と人口減少、公共施設やインフラの老朽化、税収はどうなる、社会保障はどうなっていく...など、今の私たちにとても大きな課題ですが、これからの子どもたちにとってはもっと大きな課題になる可能性があります。私たちは、今の選択にあたって、そのことをつかんでおくべきではないでしょうか。

質問要旨

鈴鹿市は10年後、20年後、鈴鹿市の人口動向、高齢化率の推移、税収予測、義務的経費及び普通建設費の推移等の予測について、どのような考えを持ち、予測をしているのか？

人口について

10年後、20年後の人口動向等について、20年後の推計に関しては現時点において行っていない。10年後の推計に関しては、3期の行財政経営計画の実施計画を策定した際、コーホート変化率法という手法を用いて、平成23年6月時点の総人口をもとに平成33年までの推計を独自に行っている。これによると、今後、総人口は減少傾向となり、平成33年には現在よりも約9百人減少するものと推計している。

疑問

全国で人口が減少することはどう考えているのか、推計している人数は甘くはないか。

高齢化について

高齢化率に関しても、20年後の

推計は行っていないが、人口動向と同様の手法による平成33年までの推計結果では、65歳以上の高齢人口の割合は年々増加し、高齢化率は現在の約20%から、10年後には約24%に推移していくと推計している。

疑問

高齢化が進めば、福祉関連費の負担も増えると同時に、介護保険の保険料値上げの検討などの課題も出てくるけれども、その点は考えられているのか。

税収について

税収の予測について、税収は社会情勢や税制の動向などに左右されることから、10年後、20年後という長期的な推計は現時点では困難なため、中期的な見通しとして

財政計画において、平成24年度から平成27年度までの期間で推計している、横ばいからやや微増になると推計している。

疑問

人口減少はどのように勘案されているのか、人口が減れば納税者も減り、単純に考えて税収に影響があるはずでは。消費増税や復興増税などの動向はあるが、長い視

義務的経費について

人件費、扶助費、公債費の義務的経費の推移について、財政計画における中期的な見通しとして、ほぼ横ばいで推移するものと見込んでいる。

疑問

扶助費について、高齢化が進めば、社会保障に関連する費用は増えていくのではないかと。ここ10年間の財政の動きを見ると、扶助費は右肩上がり伸びているので、説明と合わないのではないかと。

建設費について

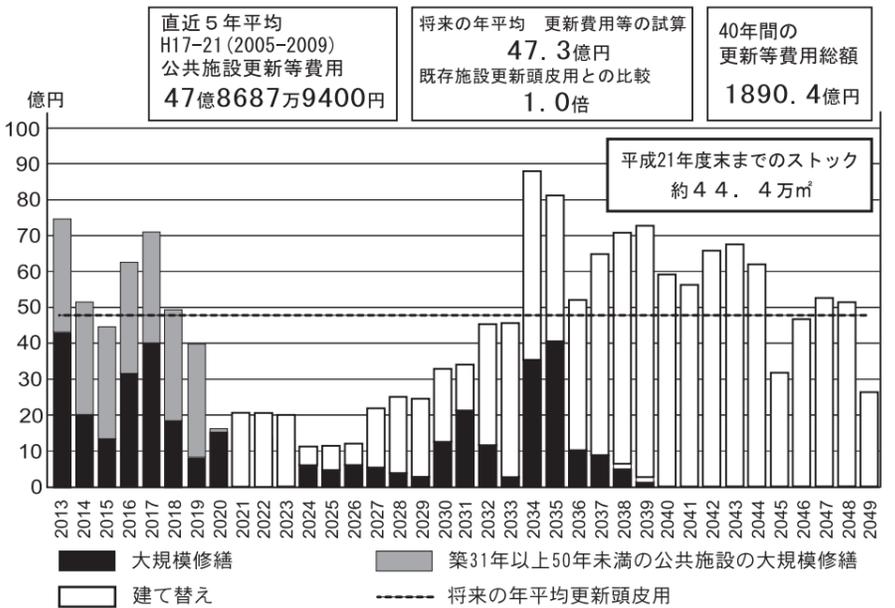
普通建設費について、厳しい財政状況だが、今後も、本市の都市基盤を維持・整備していく必要があることから、各年で55億円の事業費を確保することとしている。

疑問

はつきりしない将来見通しの中で、この事業費が確保できるのかどうか。上水道管、道路、橋などについて、維持更新をすべて行うという考えなのかどうか。

どうして公共施設マネジメント？

鈴鹿市における公共施設の将来の更新等費用の推計



公共施設は、耐用年数60年での更新を前提に、整備年度ごとの延べ床面積に更新単価を乗じることにより試算している

質問要旨

昨年7月に行政側から提出された、総務省配布の無償ソフトを用いて算出された今後の公共施設の維持・更新費用についてのグラフです。ここで、今後40年にわたって年約47億円が維持・更新費用に必要になるという予測があるが、公共施設の更新についてどのような考えなのか。

全部は厳しい

高度成長期、人口急増期に多くの公共施設を建設整備して、これらの更新が同じような時期に必要なとなると考えている。財政状況等も今後は見通しが不確定で、将来的に厳しい財政運営の中で、公共施設や道路等のインフラを維持しなければならぬ状況になる

マネジメント推進

公共施設の整備にあたって、利用者のニーズ等を十分考えて行うとともに、施設の長寿命化等、トータルコストの縮減につながる、より計画的な取り組みや、財政の平準化を検討することが必要と考えている。このため、公共施設マネジメントを推進し、各施設の実態把握を適切に行い、公共施設等の維持や整備の方針を検討したいと考えている。

デトロイトと夕張

先だって、デトロイト市が財政破たんしたというニュースが話題になりました。都市の規模や、日本とアメリカの国と地方の関係の違いはありますが、鈴鹿市にとって他人事ではありません。日本でも夕張市が財政破たん、財政を立て直すため、大幅なリストラ、行政サービスの切り詰め、市民負担を増やすなどしています。に残るのは移動できない人ばかりという問題が出ています。

政治は変わる時期

まちが「あれもこれもする」時代から、「あれかこれを」時代に変わっています。市長の政策はもちろん、議会の議決も問われます。全国の地方議員が、この課題に向かっています。今の時点で人口減少は避けられませんが、少子化対策に取組まなければいけません。人口が増えるまでの間、減少した分、税収なども減少します。

だから、これからは行政や議会だけでなく、市民の皆さんも一緒に考え、選択に関わってもらえるようにすることが、これまで以上に重要になります。鈴鹿の財政はどうか数字やグラフを見て一緒に考えたり、公共施設やインフラの状況を、これからの予測を踏まえながら考えることが大切になります。



つれづれなき
つづばなき